

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会
開 催 日 時	平成29年7月12日(水) 午後3時00分～午後4時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出席者の氏名	〔委員〕 東京工業大学名誉教授 赤堀 侃司 清進小学校長 横須賀 邦子 東中学校長 柴崎 信明 中学校PTA代表 見澤 利美 健康づくり支援課 保健師 齋藤 彩 社会教育課 副主幹 橋本 浩志 スポーツ振興課 指導主事 本間 博 所沢図書館 主査 田島 直子 保健給食課 主査兼指導主事 澤村 文香 所沢市子ども会連絡協議会 副会長 須田 昭仁 市スポーツ少年団 代表 小高 正俊 NPO子ども大学ところざわ 代表理事 小出 敦子 所沢第二幼稚園長 根本 綾子 北秋津保育園長 末吉 麻里 椿峰小学校 教諭 柳田 裕子 三ヶ島中学校 教諭 山下 洋
欠席者の氏名	小学校PTA代表 後藤 敏隆
議 題	1 説明と協議 説 明 (1)本委員会について (2)『学び創造アクティブプラン』基本方針・行動方針説明 協 議 ○協議の視点 <学校・家庭・地域の3つの行動方針をどのように具現化するか> ①児童生徒が主体的に学び、「わかる喜び」を味わえる授業の創造(学校) ②生活習慣の見直しによる家庭学習の習慣(家庭) ③「考える力・判断する力・表現する力」を育成する体験活動の充実(地域)
会 議 資 料	・平成29年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会次第 ・平成29年度所沢市学び創造アクティブプラン推進委員名簿 ・所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会設置要綱 ・所沢市教育振興基本計画(一部抜粋) ・平成29年度所沢市行政推進施策(一部抜粋) ・『学び創造アクティブプラン』学力向上推進事業【基本方針・行動方針】 ・『学び創造アクティブプラン』学力向上推進事業 リーフレット ・学校アクティブ研究校・学校クリエイト研究校研究題目一覧 ・平成29年度第1期「ノーメディアチャレンジシート」

担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238 〈出席者〉 内藤隆行教育長、田中和貴学校教育部長 岩間健一学校教育部次長兼学校教育課長、出居正之学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、米澤三八子教育センター所長、御菩薩池好行学校教育課指導主事、徳増由美子学校教育課指導主事、藤田恵子学校教育課指導主事、真崎孝博学校教育課指導主事、田中丈仁学校教育課指導主事
-----------	---

式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	◆開会
司 会	進行は事務局の御菩薩池が担当する。平成29年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を開会する。
司 会	内藤教育長より挨拶を申し上げる。
教育長	<p>「学び創造アクティブプラン」には、最初の「学び改善プロジェクト」から「学び創造プラン」に引き続き、3段階目「主体的、対話的で深い学び」としてさらに創造的、能動的な学びに火をつけたいという願いが込められている。これまでの取組を通して、求めているもの、領域等に大きく変わるものはない、これまでの実践によって学校は確実に変わりつつある。</p> <p>授業改善として、「本時の目標」や「本時の授業で学んだこと」を児童生徒と共有することから始まった。小・中学校で実施率に差があったが、小学校の確実な実践により授業にしまりが出てきたこと、学力・学習状況調査等に表れたことなど、成果を実感したのは学び創造プランの後半の時期に入ってからのことであった。市内小・中学校で、いくつかの約束事がある授業の実践が実現されていることも、成果が出ていることであると捉えられる。一方、学力を定着させるには、家庭における読書などが大切で、「うちどく」として本市では推進している。昨年度所沢図書館が「子どもの読書推進活動」で文部科学大臣表彰を受けた。「子どもの読書活動の推進に関する法律」に則って確実に取り組みを展開されたことが評価された。また、ある小学校では、その地域にある図書館への利用が着実に増えてきたという話も聞いている。そういっ</p>

	<p>た中で我々は深い学びに結びつけ、そして強いられたものではなく発見することが楽しくなり、好奇心に火をつけていくようなものにつながっていけばよいと考え、この会は設置されている。それぞれの立場や経験の中で、子供たちの主体的で深まる学びに向けた忌憚のないご意見をお願いしたい。</p>
司 会	委員の紹介並びに事務局自己紹介
司 会	委員長の選出を行う。設置要綱第5条により委員長・副委員長については、委員の皆様の互選となっている。いかがか。
委 員	委員長を赤堀先生をお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで、赤堀先生をお願いするというのでよいか。 赤堀先生をお願いしたい。次に副委員長は、いかがか。
委員長	柴崎校長先生をお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで、柴崎校長先生をお願いするというのでよいか。 柴崎校長先生をお願いしたい。
委員長	<p>委員長より挨拶申し上げる。</p> <p>私も、これまで学び改善プロジェクト、学び創造プラン、今回の学び創造アクティブプランの推進委員会の委員をさせていただき、ありがたく思っている。所沢に在住し、市内中学校の学校評議員もさせていただいている。先日、その中学校の公開授業では、暑い中、子供たちの頑張る姿を見て、まだまだ日本は大丈夫だと感じた。これからの日本を支えてもらうためには、若い人たちに頑張ってもらわなければならない。教育とは、未来への投資である。教育は今のためではなく、未来に向かって、日本を支えていく子供達への我々の贈り物である。家の前を通る子供たちの姿を見ると、応援したくなり、この会に参加できることを嬉しく思っている。この会は、学びを創造していくという素晴らしい委員会なので、委員の皆様とともに、この会を推進することで、微力ながらお手伝いをさせていただきたい。</p>
委員長	では、事務局より、学び創造アクティブプランの説明1～3をお願いする。
事務局	◆プレゼンによる説明
委員長	このプランの内容について質疑応答をしたいが、いかがか。
委 員	質疑なし
委員長	学び創造アクティブプランの「3つの行動方針」について、委員それぞれの立場から意見を伺いたい。
委 員	<p>中学生になると部活もあり、家庭学習の時間が少なくなる。とにかく時間を作ることが大変である。資料の結果で「やれなかった」、「あまりできなかった」ということが多かった。子供たちは、忙しさや疲れで授業が頭に入らなくなり、分からなくなるという現状がある。先生にも「めあてを明確にして」など授業改善等に頑張っているが、授業を受け入れる側の子供のスポンジが学習とは違うもので埋まってしまっているように思える。子供たち本人のやる気を育てていかなければいけな</p>

	い。成功の積み重ねが必要である。
委員長	中学生は家庭学習などをする時間がないということについては、いかがか。
委員	6時過ぎまで部活をし、帰宅後の塾、土日の部活動などで自分の時間を作るのは難しい。中3の夏の大会後にやっと時間が作れるようになる。そこから自分の進路に向けて時間をどのように使っていくかを考え、生活を立て直していく。中学生は家庭や地域ではなく、学校で過ごす時間が多いのですが、3年生になって、部活が終わり、時間ができるようになると、地域や家庭と関わる時間が増える中で、進路について考えていく。
委員長	部活等の時間とは別の点で、今の子供の姿や生活について、ご意見を願いたい。
委員	<p>教室を訪問する際、黒板に必ず「授業のめあて」などが書かれているのを拝見すると、学校ではこのプランが実践されていると実感する。</p> <p>最近、学校教育にたくさん時間を使い、社会教育における時間が少ない。学校以外の時間は、社会教育の時間であると考えるが、部活が終わってから塾に行き、帰ると、もう夜の10時となる。そうすると、家庭で過ごす時間が8時間くらいで、ほとんどなくなってしまふ。地域に携われる時間については、土日にスポーツクラブなどに通うとなると、子供たちが地域社会の中で育つ、地域社会の中で触れ合う時間も、非常に少なくなる。我々が子供の頃は、もっと社会教育に触れる時間があつた。子供会活動は地域に根差したもので、いいものがたくさんある。しかし、学校や塾に子供の時間を取られてしまっている。そのため、本当の意味での世代を越えた交流や、地域に残る大切な伝統を受け継ぐ機会が、失われつつあると危惧してしまふ。</p>
委員	<p>子どもたちが社会教育における色々な体験活動の時間に割けないという現状については、同じ意見である。家庭の生活習慣の見直しによる家庭学習の習慣化について、本プランで推進している「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みなどについては、実践されてきていると感じる。</p> <p>「ノーメディア」にはまだ課題がある。高校生など、スマホを持っていないのがすでに少数派になってしまった。個人のスマホはなくても、家庭でタブレットを見ている現状も見られる。「家族の見届け」についても本プランに書かれているが定期テストの前に学校から出される家庭学習に計画表は大変役立っている。</p>
委員	<p>学校教育は、子供の長い人生において期間限定で、その後の生活はすべて生涯教育、社会教育である。子ども大学所沢は、学校教育機関ではなく、さらに社会教育的立場に偏ったものでもない活動に心掛けている。学校教育の中に、社会教育の種はいくらでも転がっている。要はそれをどう捉えていくかということ。「物事の捉え方」「発想の転換」などを、子ども大学では子供たちに提案していきたい。</p> <p>地域の教育力を生かし、「重松流祭りばやし」を、体験などを通して学習している。「大学」という名前から、もう少し難しい内容でもよいのでは、という保護者の意見から、「プログラミング」などの小学生には少し背伸びした内容も取り入れている。我々子ども大学が目指す教育は、学校教育をベースに「生きる力」を子供なりに、</p>

	<p>彼らの言葉で理解できるような、落とし込めるような講義を提案することを心掛けている。</p>
委員長	<p>幼稚園や保育園の立場で、本プランにおけるそれぞれの取組について意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>幼稚園では、学校教育につながるため、所沢市の教育理念に基づき「元気な子」「頑張る子」「やさしい子」を掲げ、図書室での絵本の貸し出しを通して、家庭での読書習慣化、母親の絵本の読み聞かせの機会の確保、読み聞かせサークルの活用、親子絵本タイムの設定等をしている。学校のように、文字によるめあての提示はできないが、写真や絵など、視覚から入る情報で明確化し、これからの活動の流れなどを子供に伝えている。</p> <p>地域とのつながりでは、荒幡地区は、地域の方々による子供たちの見守りをとてもよくしてもらっている。重松流のお囃子や盆踊り、繭玉祭りなど、地域の方の協力により、地域の伝統を教える活動を、保護者にも伝えながら行っている。</p> <p>学校教育への接続について、中学校の職場体験活動による交流や幼稚園行事への生徒の協力により、ふれあいの機会を設けさせてもらっている。園児が入学する小学校の1年生との交流授業、5年生との給食体験、運動会練習の見学などの交流により、小学校入学に期待が持てるような取組をしている。</p> <p>こちらも外に出たり、地域の方にも幼稚園に来ていただいたり、多くの交流の機会を持っている。こういったことが学校教育につながっていけばと考えている。</p>
委員	<p>「できるようになりたい、よくなりしたい」という言葉が心に残った。保育園の0歳から1歳の子供たちも「やってみたい、できるようになりたい」「できるようになってよかった」という同じような気持ちが育っていて、まさに小さいうちからの積み重ねであると言える。</p> <p>保育園では、預ける側と預かる側が一緒に育てていく「共育て」に取り組んでいる。保育園でどう成長するのかを、保護者にも理解してもらえるように、保護者に体験してもらうことを大事にしている。先日の祭りでは、保護者に太鼓の出し物を発表してもらうことを通して、緊張感や練習の大変さなどを体験してもらっている。子供も同じであることを知り、子供に目が向き、子供と保護者が互いの努力を共有することもできる良さがある。このような体験を通して、保護者が子供に寄り添うようになるよう、現在取り組んでいる。</p> <p>絵本の貸し出しを毎日行っている。年齢ごとの人気ランキングや、借りているパーセンテージなどの統計を出している。結果をもとに、保護者に懇談会等で読書の啓発を行っている。</p> <p>保護者は、メディアを通して様々な情報を入手している。しかし保育園では、今何を大切にしているのかを、言葉や体験で保護者に知らせている。つまり、子育ての根っこを大事にして、毎日毎日の繰り返しで子供たちが成長していくものを、保護者に提供しているという現状である。</p>

委員	<p>「所沢シティマラソン」等の中学生ボランティアについて、スポーツをするだけでなく「支える」「見る」「知る」などのスポーツとの関わりの中から、「支える」というボランティア活動を毎年行っている。昨年度は、約60名の中学生が自ら参加した。その中で、初めて出会う色々な人と一緒に、ボランティアを通じて、その人と自分がどう関わっていけばよいのかを、体験を通して学ぶことができる。スポーツ振興課として、シティマラソンだけでなく、色々な機会を提供していきたいと考えている。</p> <p>今回、体験活動の充実のところで、新たに「生涯スポーツの推進」を記載してもらっているので、それぞれのスポーツを「する」のみならず、色々な提供の仕方をスポーツ振興課で取り組んでいく。</p>
委員長	<p>所沢シティマラソンに、中学生は選手としても参加できるのか。</p>
委員	<p>選手としても参加できる。ボランティアとしても参加できる。他の市民のボランティアとともに活動することに意味がある。</p>
委員	<p>スポーツ少年団には、現在2,000人弱の小学生が、様々な種目のスポーツをしている。スポーツ少年団の意義は、強い選手を育てることではなく、スポーツが楽しいものであることを、子供のうちから体験してもらうことである。我々指導者は、無理やりスポーツをやらせるのではなく、子供は子供なりに自分に合ったスポーツがあるので、指導者が子供のいいところを引き出し、伸ばしていくことが大事である。</p> <p>スポーツ少年団でも、駅伝とマラソン大会を小学校と連携して行っている。スポーツ少年団は、プロの選手を育てることや、勝つための指導ではなく、スポーツの楽しさや、勉強とスポーツの両立を大切に指導している。</p>
委員	<p>昨年度までの学び創造プランについては、これまで小学生の子を持つ保護者の立場として、ノーマディアのチャレンジシートを子供とのコミュニケーションツールの一つとして毎年活用し、素晴らしい取組であると思っていた。</p> <p>保健センターでは、誕生前の妊娠期や赤ちゃんから、お年寄りまで、全ての方々の健康に関する検診や、相談事業などに対応している。保健師、助産師、看護師、栄養士、歯科衛生士、レントゲン技師など様々な職種の者が対応している。</p> <p>平成28年度から「所沢市保健医療計画」を策定し、各ライフステージに合わせたリーフレットを作成した。児童・生徒・学生期のリーフレットも作成し、小・中学校に配布した。その中には、「平成26年度市民健康生活実態調査」において、小5、中2、17歳に実施した結果からわかる実態も盛り込まれている。やはり中学生、高校生と年齢が上がるにつれて、インターネットの使用時間が長くなり、就寝時間も遅くなる傾向があった。保健センターではなかなか学生と関わる機会がないので、このような形で学校と連携し、情報提供を行っている。主に関わるのは3歳児健診までのお子さんで、就学前の生活リズムの確立に向けてリーフレットを配布し、保護者に伝えている。就学時健診においても、小学校入学前の子を持つ保護者に、生活リズムの大切さについて伝えている。</p>

<p>委員</p>	<p>養護教諭の研修会で保健センターの方をお招きし、「所沢市保健医療計画」の話をさせていただくなど、横の連携も図っている。昨年度、埼玉県教育委員会で行った「インターネットの利用と心身の健康について」という調査報告書からも、インターネットの利用時間が多いほど、心身の健康に影響を与えていることが明らかになっている。</p> <p>ノーメディアチャレンジは、市内小・中学校全部が取り組む素晴らしい取組なので、なぜこれが必要なのかをよく指導して行くと、意欲的な取組にもつながっていくので、養護教諭が、そういった根拠をもって指導することが必要であることを伝えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>読書とは本来、個人的な楽しみの一つであって、やらなければいけないものではない。しかし、私たちとしては、読書をすることによって、その人の人生が豊かになるということを信じて、子供達の読書活動の推進を行っている。</p> <p>主な取組としては、学校と連携して調べ学習等で使う本の貸し出しや、小学校3年生の全学級にブックトークでの本の紹介などを行っている。</p> <p>読書習慣については、入学前の段階から本は面白いものだと思ってもらうことが大事であると考えており、図書館でも、未就学児向けのお話会を実施している。2年前からは保健センターとも連携し、BCG 予防接種の会場で待っている母子に、読み聞かせやわらべ歌の紹介を行っている。こうした取組を通して、お母さんに、「わらべ歌を使って子どもに触れ合うことは楽しいこと」「子供の言葉の力も育っていくこと」を、体験を通してご理解いただく。こういった取組を通して、子供たちが自発的に本を手取る習慣につながっていけばと考え、日々の活動に努めている。</p>
	<p>学校教育の立場での意見を願います。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校では、幼稚園や保育園から入学してきた子供たちに、45分間の授業があることや、休み時間と勉強時間が分かれていることなどから教えている。家庭との協力が不可欠である。学校と家庭で足並みをそろえていかなければ、子供たちも上手く伸びていけないので、ご家庭に協力を求めることが多くある。子供たちが、できることが増えるとうれしいと思えるよう、知識の定着だけでなく、勉強の面白さを感じることや、意欲を持続させたまま、上の学年、学校へ繋がっていかせたい。そのような思いで日々授業をしている。</p> <p>めあてを提示する取組は、ここ数年良く取り組まれている。うまく自分の言葉での説明や、自分の考えを述べるまでには至らないが、授業の中で、自分の考えを小グループでの交流の時間を設けてきたことで、大勢の前ではうまく発表できない子も、小グループで友達に考えを伝えることが少しずつできるようになった。子供たちも交流の時間が好きになってきている状態である。</p>
<p>委員</p>	<p>中学校では、学力を伸ばすことが喫緊の課題である。本校では思考力・表現力を伸ばす手立てとして、絵を10分間鑑賞する取組を週一度行っている。この取組も2年目に入り、どんな成果があるかを、校長が面接を通して子どもに聞いているが、「正</p>

	<p>解がないから発表する力が付いた。」「友達の意見を聞いて自分の考える力が付いた。」「書く力が付いた。」など、ほぼどの生徒からも肯定的な意見が出されている。その面がステップアップ調査の結果にも出ており、3年生の書く力が昨年度より4ポイント向上、2年生は昨年度より10ポイント以上の改善が見られた。</p> <p>今後は、この取組をベースに学ぶ力をつけていく取組を実施していきたい。</p>
委員	<p>「子供達はできるようになりたい・よくなりたいたいと願っている」という言葉に「教員も」とつきたい。このアクティブプランや、これまでの学び創造等は、校長として教職員に示す方向性の土台となっている。教員が作成する自己評価シートにおける目標も、このプランに示された「主体的、対話的で深い学び」をするにはどうするかなど、新しい視点で目標を書くよう指導している。当初、「漢字テスト90点以上」と目標に書いていた教師が、「ICTの利用を通してわかる授業を行う」と書き換えた教員もいた。</p> <p>教員が充実すれば、子供達も充実すると考える。PTA や育成会、地域の方々とコミュニケーションをとって仲良くなる。地域の方々にも常に感謝の気持ちを伝え、連携することで、学校が地域での教育の土台となると考える。</p>
副委員長	<p>委員の皆様の話を聞いて、「本人のやる気や成功の積み重ねが大事である」「楽しく」「スポーツを好きにする」「本は面白いなという体験をさせる」というようなことが重要であるなど、たくさんの意見が出された。私も同様に考える。</p> <p>「教育は、家庭の教えで芽を出して、学校の教えで花を咲かせ、地域の教えで実を結ぶ。」とよく言われている。大きな花を咲かせる教育というのは、各学校だけで、できるものではない。幼・保・小・中全てを通して同じ歩調で進めていくのが、本市の学び創造アクティブプランである。統一した取組によって、子供たちの意欲がさらにわくようなものにしたい。教育長の「一人の百歩より百人の一步だ」という話にも通じるものである。</p> <p>私も一校長として学校を預かっている以上、地域に根ざし、地域を愛する、ふるさと所沢を愛する心の大切さを、いつも子供たちに話している。「きっと、ずっと、仲間の学校にしよう」で頭文字をとると「きずな」となる。この絆を大事にしながら教育を進めていこうと考える。</p>
委員長	<p>大学を見ると、学生がとても真面目になっている。欠席や遅刻をしない。しかし何が大切で大学に行っているのかが分からない。学生の楽しみはと聞くと、「家でゆっくりすることだ」という。ほかに楽しみはないのかというくらい元気がない。</p> <p>このままいくと、アメリカや中国、他の諸国にも負けるであろう。GDP3位と言っているが、いずれ5位6位になるであろう。しかも少子化である。日本の小・中学校教育は世界でも注目されている。日本の大学教育は、ランキングでも下位の方である。大学の世界ランキング100位に入っているのは、東大と京大くらいである。今回議論されたような教育が、大学や社会人まで接続していくようなシステムとは何だろうかかと考えている。良い子ばかりを育てているのではないか。失敗をし、苦しくても頑張ろうというガッツのある人間を育てるには、どうしたらよいかというのが課題であ</p>

	<p>る。このことも、小・中学校の教育の中で念頭において考えていただきたい。小・中学校で世界に目を向けた誇れる教育をしても、大学や社会人になった時に世界で戦えない人材になっている。</p> <p>では、どうやって小・中学校から新たな力を身に付けたら良いかを、文科省が考えて、資質・能力と言ったわけである。資質・能力は消えてなくなる。これをどうやって繋げていくのかが大問題である。</p> <p>是非、創造しながら、アクティブにこのプランを実行できればと考える。</p>
司 会	<p>委員の皆様の貴重なご意見に感謝する。只今いただいたご意見を踏まえ、平成29年度の学び創造アクティブプランの推進事業の充実に生かして行きたいと考える。</p> <p>平成29年度第2回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会は2月8日（火）午後2時より開催する。本年度学校アクティブ研究委託校16校そして、学校クリエイト研究委託校5校の発表会と併せて開催する。是非今年度の研究委託校の成果をご覧いただきたい。</p>
	<p>◆閉会</p>
司 会	<p>平成29年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を閉会する。</p>